

第53回上越市美術展覧会
The 53rd Joetsu City
Art Exhibition 2024

市展

10/6(日)▶14(月)祝
10:00▶18:00〈最終日16:00〉

部門と会場

日本画/洋画・版画/彫刻・
立体造形/工芸・グラフィックD
高田城址公園オーレンプラザ
書道/写真
ミュゼ雪小町[あすとぴあ高田5階]

搬入 日本画/洋画・版画/彫刻・立体造形/
工芸・グラフィックD=高田城址公園オーレンプラザ
9/25(水)10:00▶19:00
書道/写真=ミュゼ雪小町[あすとぴあ高田5階]
9/26(木)10:00▶19:00

審査・講評 9/28(土)14:00▶16:30 各部門共展示会場

主催 上越市
事務局

上越市教育委員会社会教育課 ☎025-545-9254

講評

■ 日本画部門

創画会正会員、東京藝術大学日本画研究室テクニカルインストラクター 長澤 耕平

大学の恩師の言葉で今でも記憶に残っていると自分に大事にしている言葉があります。「丁寧な仕事をしなさい。」というものです。これは表面的に丁寧な描き込みをせよということではなく、どんな絵柄・絵肌であつても自分勝手に「こんなものでいいだろう。」という予断で作品を進めることのないように、という教えたつたと理解しています。はじめて審査にあたらせていただきましたが、そういった意味で今回の出品作は丁寧で丹念に描かれているものばかりで、好感を持ちました。

優秀賞に推した浅井悠子さんの「里山の春」は、手前の街並みや川に架かる橋から桜の咲く山道を通つてもう一つ向こうの山へといへん実感のこもった描写で描き出しています。ひとつひとつの事物を決しておろそかにしない丹念な姿勢に作者の温かい眼差しを感じました。色彩に優れ、全体に明るい雰囲気にも魅かれました。決していわゆる「上手」というわけではないのですが、絵とはこうあるべきだなということを感じさせてくれる秀作だと思います。

新潟日報美術振興賞には佐藤裕子さんの「タチアオイ」を推しました。画面中央に大胆に配置された立葵の花と繊細な色調によるやわらかな雰囲気が目を引きました。葉や背景に配された柵にも決していやらしくならない加減で色を忍ばせ、画面全体の華やかさを演出しているあたりに作者の絵づくり巧者ぶりがうかがえます。

佳作には金井靖夫さんの「収穫の野菜」、宮越琴理さんの「蛇喰鷲」、鷺澤千恵さんの「つらつら椿」を挙げました。「収穫の野菜」は卓上にトマトやきゅうり、なす、苦瓜等を配し、それぞれを実直に描いた力作です。何気ないモチーフですが、作者の絵に向かう熱意が感じられ迫力があります。個々の野菜に入るハイライトの色調を工夫するとよりそのものらしさが際立つでしょう。「蛇喰鷲」は飾り羽根、体毛、嘴等異なる部位に合わせた筆づかいが的確でした。平面の中に空間や量感を意識するとより真に迫った表現になるかもしれません。「つらつら椿」は岩絵具の特性を生かしたやわらかな色調が魅力です。統一された色調の中でも、もう一息、質感の違いを意識してみると豊かな画面になるでしょう。

それぞれに目標やモチベーションがあるかと思いますが、楽しく描き続けていっていただければと思います。

■ 洋画・版画部門

画家、東京造形大学絵画専攻領域教授 近藤 昌美

本展の審査員としてお招きいただいたのは一昨年に続いて2回目です。新幹線の駅から高田城址公園に向かう車の中から城址のお堀いっぱいに広がる大きな葉の蓮を再び目にして、またこの地に來られた感慨が一気に湧き上がって來ました。

こうした歴史的厚みのある街を訪れることは東京とその近郊で行き來している私にとって審査員という重責以上に喜びを与えてくれる機会で、またこの地に來られることを望んでいました。

さて今年度の審査ですが、出品者、出品数とも昨年を少し下回ったのが気になりましたが、それでも総数100点を超える力作が集まり、その審査は非常に難しいものでした。まずは佳作も含めた20数点を抜き出し、別の場所に並べ直してさらに順番を入れ替えながら市展賞、優秀賞2点、新潟日報美術振興賞と入賞作品を決めて行きました。

まず市展賞受賞作は「共生（共に生きる）」。67歳の方の作品とこのことで、枝を四方に伸ばす樹木だけをメインに作画してありますが、その交錯する枝枝の間の背景の空が青からピンク、オレンジと自由に配色され、写実ではない抽象性が絵画の強度をより一層強めていて素晴らしい作品になっています。

次に優秀賞の2点から、まず「1300年の霞の月」。74歳の方の作品は水彩により樹木を描いたものですが、実に不思議な雰囲気のある作品に仕上がっていて非常に個性的でした。優秀賞2点目の「収穫」は、76歳の方の作品で、油絵具のマチエールを上手く使って、具象絵画でありながら非常に抽象度の高い作品に仕上がっていて、長いキャリアを感じさせるものでした。

最後に新潟日報美術振興賞は「9月、悔やむ」。25歳の若い方の力作です。自画像のような大きな顔を画面いっぱいに激しい筆致で描いた二連作の片方を選びました。黒と赤系のシンプルな配色を叩きつけるような筆致でキャンバスに載せていくその行為性も含めて、強い作品になりながらも絵としてもきちんと成立していました。

その他、佳作の皆さんも受賞作品と甲乙付け難く、審査は実に難しいものでした。

気掛かりは、受賞者の皆さんの平均年齢が高めなので、今後はもう少し若い皆さんにもどんな出品していただかないと出品者数が先細るのではないかと心配なところですが、しかしながら、歴史と文化の厚みのある上越市ですから、今後もこの美術展が盛況に継続してくれることと期待しています。

■彫刻・立体造形部門

一陽会運営委員、筑波大学名誉教授 中村 義孝

彫刻は、一般的に木や石や金属などの容易に形になりにくい素材を使用し、ある程度の道具や制作の場所を準備し、時間と手間をかけなければなりません。心の中にあるものを表出する芸術表現領域の中で一番とっていいほど面倒な表現かもしれません。従ってこの領域に出品されている方は、おのずとその人数も限られてくるのかと思います。今年の出品者は9人で、他の分野からすると少ないですが個々人がこだわりを持って制作した力作を出品していただきました。

市展賞を受賞した山田満康さんの「握り手」は、樟材の一木彫の作品で、仏像の印相を結んだ手の形から発想したものと思われれます。しかし、仏像の形式的な形から解き放たれ、制作者独自の視点から得られた形態を獲得しています。正面や側面の彫刻的造形もしっかり踏まえられており、結果、豊かな量感が実現され、小さいながら空間の中にしっかりと存在感を放っています。木の扱いにも慣れており、優れた木彫表現技術も高く評価いたしました。

佳作の梅津幸三さんの作品「雲蒸龍変の子」は、畳表、カーペット、綿、竹の皮等を使用したミクストメディアの表現で、他にあまり見られない独創性がありました。畳表を巧みに折って子どもの形態を作り上げたところも面白く、龍の形態も迫力があり評価いたしました。

今回の出品はご年配の方が多かったようですが、人生の後半を生き生きと生きるために何かを創造することは意義のあることだと思います。感性豊かに、手を使って素材と会話しながら形を生み出すことによって、多くの人の心を豊かにしてもらえればと思います。受賞された方も、惜しくも今一歩及ばなかった方々も、更にそれぞれの表現を追求し、進化させていただければと思います。

■工芸・グラフィックデザイン部門

瀬戸陶芸協会副会長、日本工芸会準会員 加藤 圭史

陶器を「せともの」と申しますが、その語源となった愛知県瀬戸市から参りました。一説には陶都（すえと）がなまり「せと」となったと言われています。私は窯元の六代目ですが、美術は一通り大学で学びました。それもあって、今回この部門を審査させていただきました。

まず全体講評としては、皆さん色彩感が豊かです。無論、技法によっては色が不可能な場合もありますが、その限られた素材の中で不思議と感性を感じます。現在ならではの豊富なクラフト素材を使用した作品も多々ありますが、その組み合わせに唸らせるモノがありました。今後も楽しみです。ただ「作品」とするにあたり、仕上げや展示方法、サインの入れ方等、疑問に思う点もありました。ディテール（細部）に神は宿るとも申します。ぜひ最後まで気を抜かず、励まれるよう期待します。

優秀賞は、下鳥幸彦さんの「南の海から」を選出いたしました。ミクストメディアでカラフルでユニーク。南国の海への畏敬の念が伝わってきます。素材の扱いにも熟れており、展示什器も含めた完成度が高かったです。

佳作には阿部郁美さんの「鉄絵柳文皿」。懸命にロクロを引き、削り、鉄絵を描かれたのが手に取るように分かります。今後頑張りてください。

佳作にもう一点、佐藤孝雄さんの「一休み」を選出いたしました。普段から長年目にされている景色でしょうか。細部まで良く観察されているのが、千切った紙片一つ一つから伝わってきます。

実材を使って表現することは、代えがたい手応えがあります。それは我々日本人が自然を慈しみ共に生きてきた証です。是非今後も素材からの声に耳を傾け、共にご自分の表現に昇華されることを希望いたします。

■書道部門

日展作家、京都書作家協会会員 大村 裕子

第53回上越市美術展覧会が、市民の皆様にあられ今日まで継続されましたことは、豊かな風土文化が育まれた賜で、芸術を愛するあらわれです。

今回、作品制作に情熱を傾け、作品を仕上げた出品数は46点でした。その中で一点一点丁寧かつ慎重に選ばせて頂きました。特に「線質・リズム感等に優れたもの」「新鮮な息吹を感じさせるもの」、以上の美意識をバランスよく備えた作品を総合して選出しましたが、レベルが大変拮抗しており、受賞に至らなかった作品も素晴らしく、紙一重でありました。

【受賞作品】

・市展賞 塚田恵月さんの「鳳」

気韻生動を感じる安定感のあるオーラを放った見事な作品です。

・優秀賞 星野美光さんの「秋の夕風」

流れが美しく、作者の世界観を感じることのできる作品です。

・奨励賞 服部水蓮さんの「威風」

大胆な切口で墨量に秀れ堂々とした作品。見る者を圧倒させる迫力があります。

・奨励賞 加藤彩光さんの「あたらしき年」

書の特質である一回性の要白美、間の美を極めた秀作です。

・新潟日報美術振興賞 藤本歩希さんの「陶淵明詩」

上越のこれからの書道を担ってくれるという期待を込めて：確かな筆法です。

そのほか、特に気づいた点は、素晴らしい作品でも誤字や不確かな筆使いで誤字とみなされてしまったり、文字が潰れて暗い印象になったりしたものもありました。また、釈文の書き方に誤りがあり、賞を逃したという残念な方もいらっしゃいました。今後、公募展の意義も含め、線の質感、章法の自覚、そして構成（古典にのっとり）を正しく理解し、ますます書道に励んで、日々、古典臨書から始まり、古人の肉筆、格調の高い名跡からエキスを感受し、独自の書作活動を楽しんで頂きたいと思います。上越市の書道界の益々のご発展を祈念いたします。

■写真部門

（公社）日本写真家協会会員、日本大学芸術学部写真学科非常勤講師 清水 哲朗

本展覧会の審査は5年ぶりでしたが、当時よりも応募者が20人、作品数が22点増え、皆さんの関心度の高さが窺えました。しかも応募年齢が8歳から88歳までと幅広く、8歳の内木隆一朗さんは佳作に選ばれた腕前でした。他にも10代20代が3人佳作に入るなど若年層の躍進、写真の可能性を大いに感じました。もちろん写真歴の長いベテラン勢は安定の高評価が多く、そこに新しい風が吹きこんできているのは良い相乗効果を生んでいました。

市展賞は金子和博さん「漁港の華」が選ばれました。定番ポイントではない独自の撮影ポイントから、シャッタータイミングよろしく美しく捉えられた花火に、映り込みを活かした間接アプローチ、船越しの視点が想像力をかき立て、見事最上位を仕留めました。

優秀賞は2人。北川要さん「あわゆき道中」と橋本八典さん「初冠雪の朝」。どちらも風景、慣習といった地域性を情感たっぷりに表現された作品が秀逸でした。

奨励賞は7人。小池幹夫さん「三姉妹」、池内加奈子さん「おひるね」、井上国男さん「双頭蓮、咲く」、佐伯正彦さん「参道」、渡辺信行さん「仲よし4人組」、武藤和史さん「「そいヤー」、鈴木利一さん「晩秋」。日常の中にある何気ない瞬間や光景、大切にしたものなどを、無駄のない構図で臨場感たっぷりに表現された傑作揃いに共感、刺激を受けました。

新潟日報美術振興賞は高野邦夫さん「消滅集落」が受賞。タイトルを読むと寂しいイメージが広がりますが、内容、プリント用紙選択、仕上げに至るまで、完成度が高く唸りました。4秒、目が止まれば良い作品と言われますが、本作はまさにそれで、独自の世界を表現できる確かな技術は今後も他の追隨を許さないでしょう。

評価基準は自分が同じ現場に立った時どのようにアプローチしていたか。想像を超えるものには惜しみなく高評価をつけました。具体的には着眼点、光の捉えかた、被写体との距離を中心に、角度、構図、シャッタータイミング、臨場感、周辺描写、仕上げを評価ポイントにしました。選外にも完成度を高めれば、評価の上がりそうな作品が多くありました。今回の結果に一喜一憂せず、自身の可能性を信じ、挑戦し続けてください。

洋画・版画部門

彫刻・立体造形部門



「握り手」 山田 満康



「共生 (共に生きる)」 鳥原 良子

書道部門

写真部門



「漁港の華」 金子 和博



「鳳」 塚田 恵月

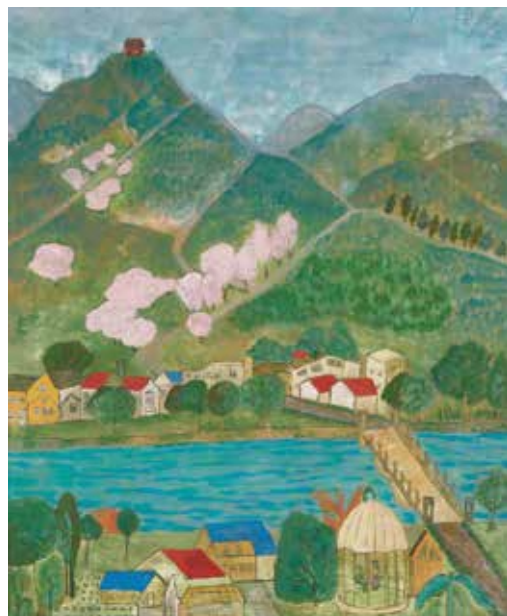
優秀賞

洋画・版画部門



「収穫」塚田 正夫

日本画部門

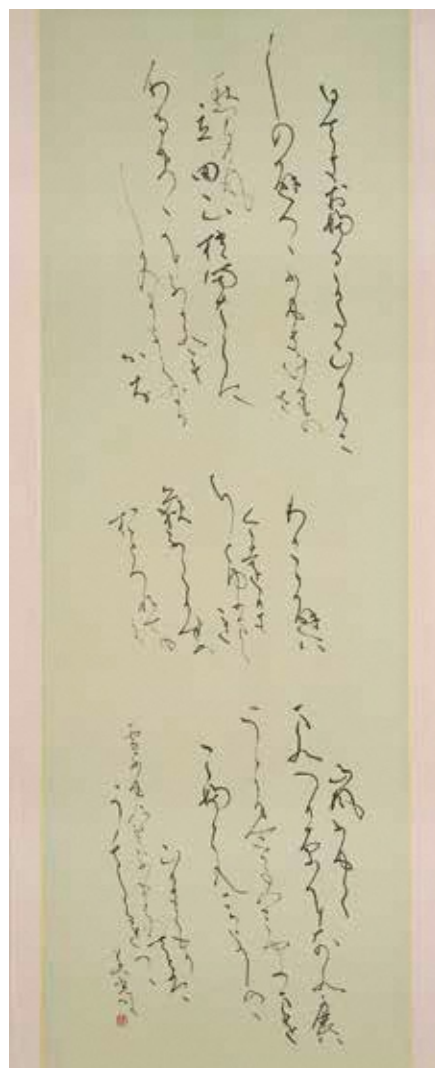


「里山の春」浅井 悠子



「1300年の霞の月」和田 秀樹

書道部門



「秋の夕風」星野 美光

工芸・グラフィックデザイン部門



「南の海から」下鳥 幸彦

優秀賞

写真部門



「初冠雪の朝」 橋本 八典



「あわゆき道中」 北川 要

奨励賞

洋画・版画部門



「晩秋の中で」 安澤 晋



「僕の未来はどうなるの」 土肥 範子



「夜明けの仲間たち」 石平 マリ子



「いざ 帰へらむ」 池上 秀敏

奨励賞

洋画・版画部門

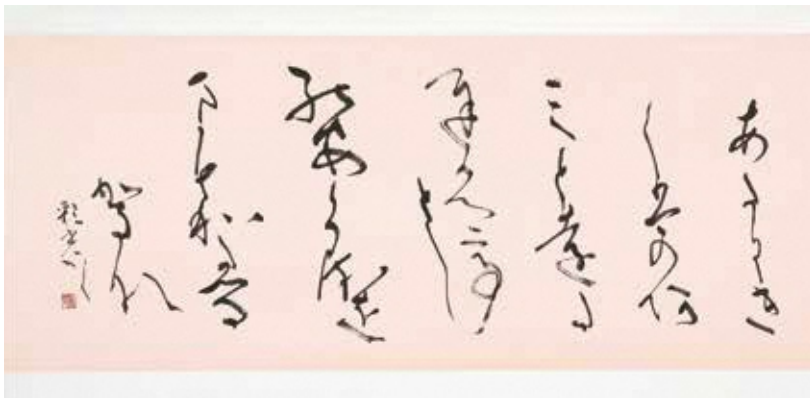


「冬晴れの棚田」池亀 守



「聖家族教会」梅澤 隆昭

書道部門



「あたらしき年」加藤 彩光



「威風」服部 水蓮



「参 道」佐伯 正彦

写真部門



「おひるね」池内 加奈子



「仲よし4人組」渡辺 信行



「晩秋」鈴木 利一



「三姉妹」小池 幹夫



「双頭蓮、咲く」井上 国男



「「そいやー」」武藤 和史

洋画・版画部門



「9月、悔やむ。」 下鳥 未来

日本画部門



「タチアオイ」 佐藤 裕子

書道部門



「陶淵明詩」 藤本 歩希

写真部門



「消滅集落」 高野 邦夫

出品目録

日本画部門

新潟日報美術振興賞		優秀賞	佳作
1	我が心の妙高山	野崎明彦	
2	Life	谷口紀子	
3	涼夏	金谷芳苑	
4	椿	小林光夫	
5	紫陽花	小林光夫	
6	収穫の野菜	金井靖夫	佳作
7	里山の春	浅井悠子	
8	タチアオイ	佐藤裕子	優秀賞
9	蛇喰鷲	矢越琴理	佳作
10	想いをよせて	宮澤紫峰	
11	笹ヶ峰IV草むらの	宮川みゆき	
12	つらつら椿	福澤千恵	佳作
13	吠える	森山恵子	
14	2024 キラキラ	博田人美	
15	鬼灯	橋爪蘭山	
16	スイス湖	細谷燈一	
17	錦秋	細谷燈一	
18	白池静寂	引場久子	
19	華の宴	小林充也	
20	藤	小林充也	
21	山間をゆく	運宮委員	
22	シユーズ	無鑑査	
23	すみれ	運宮委員	
24	南堀園	無鑑査	
25	石造りの家 巡礼の村コンク	無鑑査	
26	紫陽花のある庭	無鑑査	

洋画・版画部門

新潟日報美術振興賞		市展賞	優秀賞	奨励賞	佳作
1	秋桜	山岸朋子			
2	懐古	野村直子			
3	奔流やがて大河へ	池上秀敏			佳作
4	いざ 帰へらむ	沼波紀子			
5	水面に映える山々	池田良一			
6	風雪に耐えて	小池雅子			佳作
7	木漏れ日の中で	藤田一枝			
8	春待ちわびて	吉井一男			
9	田植え間近な山里	小林幸一			
10	就労 ふれんどりーミルはまなす	市川利夫			
11	目立て	佐藤三枝子			
12	明日壊される下町	笠原三枝子			
13	清流下る	吉原英子			
14	つわぶきに魅せられて	藤永京子			
15	グリーン フィンガー	相澤益行			
16	風景	藤永京子			
17	残雪のとき	今井清雄			
18	想い出の光景	熊木三枝子			
19	収穫	齊川進			
20	堅忍不拔	見竹美智代			
21	参道（戸隠）	佐藤一雄			
22	音合わせ	西山忠雄			
23	渓谷の熊	江川恵			
24	高原の秋	石平マリ子			
25	夜明けの仲間たち	鈴木けさみ			
26	サンセット暮れゆく秋	竹田正勝			
27	菜の花畑と千曲川				

28	聖家族教会	梅澤隆昭	奨励賞
29	冬晴れの棚田	池亀守	
30	おさな子の挑戦	上野純子	
31	激突	真坂建	
32	初夢	塚田安梨	
33	舟小屋の情景	酒井トシエ	
34	五智の人	馬場裕子	
35	砂の感触	岩崎恵子	
36	牛と人の営み、息づく	岩佐美津代	
37	おとうさんの散歩道	貝沼健志	
38	清流奥入瀬溪谷	貝沼健志	
39	水の都ベニス	羽鳥洋子	
40	裏街通り	前川利広	
41	帯広まで二千キロ	伊東邦啓	
42	妙高山麓	伊東邦啓	
43	うれしい入学日	織原英雄	
44	追懐	上野裕子	
45	リングの思ひ	岩崎恵子	
46	妙高の森で生命を育くむ	水口昭子	
47	真夏の夜の夢	梨本ナカ	
48	あしたに・「何にする、自由学習」	杉田正明	
49	ナイヤガラ滝の滝カナダ	風間史織	
50	天を衝く	早川くみ子	
51	ブルーのワンピースのMさん	久保田セツ子	
52	冬・家路	中山和子	
53	有間川漁港	小池至夫	
54	我家より妙高山望む夏の朝	松浦正憲	
55	逆さ影	中村隆	
56	戸隠の道	高橋清一郎	
57	負けるな能登	稲川幸子	
58	春光	前川正美	
59	錦鯉	小島則子	
60	春嶺	池田可津子	
61	黒姫高原御鹿池	井上信治	
62	祇園・舞妓	高波和久	
63	氷上の華		

	奨励賞	安澤晋
104 晩秋の中で	中多俊一	
105 変わる景色	山岸朋子	
106 日本海の夕日	無鑑査	牛木勝恵
107 妙高冬日	運営委員	津幡潔
108 出現	無鑑査	関口イツ子
109 苔の証し	無鑑査	大口満
110 6月のアトリエ	顧問	筑波進
111 時空を越えて浮遊する人影のストライプ	運営委員	堀川紀夫
112 Void 2024ia	無鑑査	関谷昌夫
113 作品ーI	無鑑査	田中ひろ子
114 新緑の美人林にさそわれて	無鑑査	小谷龍吉
115 冬・船と海	無鑑査	涌井和子
116 破壊		
彫刻・立体造形部門	市展賞	一点
	佳作	一点
1 雲蒸龍変の子	佳作	梅津幸三
2 阿弥陀如来坐像	市展賞	山田満康
3 握り手		山田満康
4 老いても元氣		佐藤洋二
5 海を憶えて		川合由美子
6 なぎさのかげら		沖田涉
7 学生	運営委員	松尾大介

工芸・グラフィックデザイン部門	
優秀賞	佳作
1 一点	2 二点
1 Border Line	2 Cubic Town
3 喜怒哀楽	4 風が光る場所
5 里山物語（埋木絵）	6 夢と希望のハーモニー
7 円定規でトキとコウノトリを描く	8 私对白鳥
9 南の海から	10 須弥山
11 電車に乗って・・・	12 一休み
13 何が来た？（ウッドバーニング）	14 ハギレ遊び
15 蓮文鉢	16 猷保梨拭漆盛器
17 春夏秋冬	18 鉄絵柳文皿
19 未来へ	
運営委員	運営委員
佐藤孝雄	高橋一興
上坂みどり	中嶋ミツ子
狩野浩和	狩野浩和
吉田法子	高橋一興
中島晶子	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興
川上貞男	川上貞男
細井一貞	細井一貞
無鑑査	
川上貞男	吉田法子
中島晶子	大橋美桜
高橋一興	大橋美桜
吉田法子	阿部郁美
狩野浩和	佐藤孝雄
狩野浩和	上坂みどり
吉田法子	中嶋ミツ子
高橋一興	高橋一興

書道部門

	市展賞	優秀賞	奨励賞	新潟日報美術振興賞	
1 臨 枯樹賦	一点				増田 弘樹
2 臨 道因法師碑		一点			佐藤 海希
3 集字聖教序			二点		酒井 江霞
4 城壁					塚田 萌心
5 涼州詞（張籍詩）					池田 恵雨
6 陸游詩					綿貫 愛弓
7 臨 興福寺斷碑					鈴木 貴与
8 鄧石如・隸書崔子玉座右銘					清水 桃華
9 臨 九成宮醴泉銘					栗本 拓弥
10 不動心					室岡 游紫
11 牛橛造像記 臨					柳沢 朱里
12 漢詩					伊藤 皓生
13 九聖					古川 紫光
14 臨 皇甫誕碑					捧川 萌慧
15 姚揆詩 潁州客舍					石井 翠琉
16 臨 蘭亭叙					伊藤 笑心
17 水の音					石川 瑞光
18 山桜					太田 葉光
19 漢詩					松澤 典里
20 鶯					星野 詩子
21 桎の笑					大滝 末光
22 柳宗元詩江雪					小林 玄岳
23 鄧石如詩					加納 江環
24 宿石邑山中					中島 幸雨
25 新古今和歌集より					五十嵐 翠深
26 九成宮醴泉銘					坂詰 晴和
27 残心					嶋井 朱沾
28 臨 米芾叔晦帖					櫻庭 万理絵
29 臨 孔子廟堂碑					樋口 大輝
30 重九会郡楼 臨					佐藤 靖華
31 臨 多宝塔碑					児珠 清華

32 澹然與神明居	相澤 益行				
33 妙高	渡邊 綾				
34 臨 集王聖教序	森本 登和				
35 曹全碑	諏訪部 江香				
36 臨 集王聖教序	小林 愛佳				
37 石召詩	佳作 保坂 稜楓				
38 吳蘭雪詩	佳作 野口 桜雅				
39 藍仁詩	佳作 東山 翠華				
40 高駢詩「山亭夏日」	佳作 吉崎 星桜				
41 わが恋は	佳作 相羽 多仁子				
42 威風	奨励賞 服部 水蓮				
43 秋の夕風	優秀賞 星野 美光				
44 鳳	市展賞 塚田 恵月				
45 あたらしき年	奨励賞 加藤 彩光				
46 陶淵明詩	無鑑査 藤本 歩希				
47 万里の清光	無鑑査 横山 耕岳				
48 菅原道真詩二首	無鑑査 萬羽 暁光				
49 水仙	無鑑査 山田 玉榮				
50 秋深き：	無鑑査 山崎 流泉				
51 静者心自妙	無鑑査 青柳 江雲				
52 竹久夢二詩	無鑑査 小林 智峰				
53 おくられし	無鑑査 山口 青苺				
54 雪壓難摧磧底松	無鑑査 藤田 江扇				
55 お山のお猿	無鑑査 大堀 芝沾				
56 青い空	無鑑査 岡田 凌雲				
57 山頭火のうた	無鑑査 岩間 溪水				
58 楚中秋思	無鑑査 宮崎 萩華				
59 心広体胖	無鑑査 竹田 雪洞				
60 不器用	無鑑査 小野塚 典祥				
61 良寛詩	無鑑査 宮澤 恵雲				
62 山、有、谷、	無鑑査 細野 江華				
63 七言絶句	無鑑査 柴田 蘭雪				
64 孤掌難鳴	運宮委員 山田壽雲（十三歳）				
65 年輪	運宮委員 押木 秀樹				
66 常憶	無鑑査 石塚 瑞雨				
67 島崎藤村の詩	無鑑査 坪木 虹月				
68 廓然無聖	無鑑査 古澤 星泉				
69 李白詩・峨眉山月歌	無鑑査 伊藤 星詠				
70 西郷隆盛詩	無鑑査 小山 恒夫				
71 源氏・雅びな女手					

写真部門

	市展賞	優秀賞	奨励賞	新潟日報美術振興賞	
1 あつゝい	一点				小山 秀雄
2 花火と共に		二点			飯田 慶二
3 自由研究			七点		縄 忠一
4 ダイヤモンド					大倉 真美子
5 クリスタル					平井 誠一
6 水鏡					大野 良雄
7 上空					松縄 武彦
8 寺 桜					松縄 武彦
9 儀明川とコヒガンザクラ					関川 雅夫
10 祭りの日					宮澤 光廣
11 鼻取り					横山 義信
12 燃える朝霞					今井 悠一
13 映り込みの秋					鳥越 宏久
14 「ちよつとお疲れ」					田中正輝
15 棚田を駆ける					長澤 滋子
16 天使					鴨居 志乃
17 冬の風物詩					小林 健一郎
18 春の使者					岡庭 永一
19 木漏れ陽に立つ					松井 隆夫
20 ファイナルステージ					奥田 富枝
21 波涛に舞う					中山 博迪
22 光ヶ原七夕祭					小林 一彦
23 田植の頃					小林 一彦
24 シルエット（K子）					大坪 芳彦
25 歴史を継ぐ					小島 久雄
26 待ちぼうけ					高橋 正人
27 新快速					柳澤 望雄
28 希望を植える					安原 義一
29 峰雀蛾―白日―					岸田 千枝子
30 昭和レトロ					陶山 謙一
31 得タコト、失タコト、決メタコト					武田 匠杜

32 陽が沈む
33 水鏡
34 少年
35 寝返りできたよ
36 夕焼に魅せられて
37 夜桜
38 三姉妹
39 おひるね
40 双頭蓮、咲く
41 あわゆき道中
42 漁港の華
43 消滅集落
44 初冠雪の朝
45 参道
46 仲よし4人組
47 「そいやー」
48 晩秋
49 いらっしやい
50 夏を歩く
51 干柿の唄
52 「まちがいさがし」
53 急がなくちゃ
54 躍動
55 乱舞
56 魚群
57 裏の顔
58 鮮やかな瞬間
59 虫取り少女
60 春一番
61 蓮
62 長岡花火
63 いつも仲良し
64 空飛ぶ鮭
65 情熱
66 ラストゲーム
67 残陽に染まる
68 生きる
69 自分色に染めて
70 晚霞のほくほく線（上越市にて）
71 あかり

新潟日報美術振興賞

遠山晶歩
市川航平
相澤益行
笠井英司
渡邊繁信
堀川昇太郎
奨励賞 小池幹夫
奨励賞 池内加奈子
奨励賞 井上国男
優秀賞 北川要
市展賞 金子邦博
高野邦典
優秀賞 橋本八典
奨励賞 佐伯正彦
奨励賞 渡辺信行
奨励賞 武藤和史
奨励賞 鈴木利一
田村星七
室岡由美子
高島慎一
辻井真理子
鈴木昭代
野俣昇
山本勝
能登蒼希
古川圭佑
穂苅泉吹
古川創士
佐久間嶺衣
市村太一
関村海惺
佳作 市村常夫
佳作 前崎史司
佳作 松本栄規
佳作 相澤益行
佳作 青山梨緒
佳作 山崎俊
佳作 萩原愛来
佳作 中川隆一朗
佳作 内木隆一朗

72 ミライダー
73 上越で生き抜く
74 揺らいだ世界
75 相愛の舞
76 真夏の妙高山麓を往く
77 青空のセント・パンクラス駅
78 一日の始まり
79 初夏の輝き
80 獅子舞
81 路地を行く
82 以心伝心
83 風の盆
84 探検家
85 鏡の景色
86 かくれんぼ
87 空と海
88 コウノトリ
89 宙ぶらりん
90 光彩に集う
91 替女と白雪
92 真夏の太陽 笑顔
93 おつきいなあ〜！
94 佳き日に
95 替女、門付け
96 夜桜
97 蒼空まで
98 渡さにない
99 「翔ぶ」
100 ビントを合わせて
101 春の共演
102 両手に女
103 アートな音色
104 ワァー！流される
105 替女の門付け
106 赤谷洞門で決めポーズ
107 記念写真
108 俺の旅
109 逝く夏の宙
110 春宵に咲く
111 花桃の里にて

佳作

西山悠
狩野浩和
滝澤忠章
松本一晃
岡本一
内木凛華
前澤大地
竹田直樹
西片正明
倉俣数磨
吹山ひかり
杉本ひろ子
齋木俊介
猪又優月
西條芽依香
牧野伶
井ノ山広幸
荻和一弘
広瀬政春
小日向博幸
久保田ユキ
小日向順一
池内一郎
佐々木進
桐山惺向
岩崎瑛斗
浅野蓮
田中正輝
鈴木昭代
涌井聡
西片正明
宮澤光廣
笠井英司
野俣昇
井ノ山幸
横山義信
山崎俊
辻井真理子
陶山謙一
橋本八典

112 夕焼けの空と海
113 彩る
114 日光浴
115 monologue
116 高田城址の夏
117 Charis
118 苗に寄せる想い
119 海のくらげ
120 夕焼けとレモネード
121 想いを馳せながら
122 除雪作業
123 秋の水鏡
124 見守る
125 月の軌道
126 夢の中
127 春の一日
128 オオルリボシヤンマ飛ぶ
129 相馬野馬追

小林幸
山公平
佐藤博
小山裕子
涌井聡
布施直樹
鳥山和伸
永野駿
大平幸司
市村常夫
鳥越宏久
新井浩樹
無鑑査 木村信子
無鑑査 藤野正二
無鑑査 竹田捷幸
無鑑査 関敏雄
無鑑査 内山哲英

第53回上越市美術展覧会 出品点数及び入選点数

部 門		公 募 作 品					無鑑査作品	
		出品者数 (人)	出品点数 (点)	入選点数 (点)			出品者数 (人)	出品点数 (点)
				入賞		佳作		
1	日 本 画	18	20	20	2	3	6	6
2	洋 画 ・ 版 画	94	101	101	10	10	15	15
3	彫 刻 ・ 立 体 造 形	5	6	6	1	1	1	1
4	工芸・グラフィックデザイン	12	16	16	1	2	3	3
5	書 道	46	46	46	5	5	25	25
6	写 真	104	144	123	11	12	6	6
合 計		279	333	312	30	33	56	56

※入賞・佳作は、入選点数の内数

第53回上越市美術展覧会 作品鑑賞会のお知らせ

市展会期中、運営委員による作品鑑賞会を下記のとおり開催します。ぜひ、ご来場ください。

日	時 間	部 門	講師（敬称略）	会 場
10月6日（日）	13:30～14:30	彫刻・立体造形	松尾 大介	オーレンプラザ
		写真	藤野 正二	ミュゼ雪小町
	14:30～15:30	書道	山田 真一	ミュゼ雪小町
10月12日（土）	11:00～12:00	日本画	洞谷亜里佐	オーレンプラザ
10月13日（日）	11:00～12:00	工芸・グラフィックデザイン	兪 期天	オーレンプラザ
10月14日（月・祝）	14:30～15:30	洋画・版画	堀川 紀夫	オーレンプラザ

審査員	
創画会正会員、 東京藝術大学日本画研究室 テクニカルインストラクター 長澤 耕平 (日本画)	画家、 東京造形大学絵画専攻領域教授 近藤 昌美 (洋画・版画)
一陽会運営委員、 筑波大学名誉教授 中村 義孝 (彫刻・立体造形)	瀬戸陶芸協会副会長、 日本工芸会準会員 加藤 圭史 (工芸・グラフィックデザイン)
日展作家、 京都書作家協会会員 大村 裕子 (書道)	(公社)日本写真家協会会員、 日本大学芸術学部写真学科非常勤講師 清水 哲朗 (写真)

運営委員	
委員長 堀川 紀夫 (洋画・版画)	副委員長 洞谷亜里佐 (日本画)
小林 充也 (日本画)	津幡 潔 (洋画・版画)
松尾 大介 (彫刻・立体造形)	大藏 豊彦 (工芸・グラフィックデザイン)
兪 期天 (工芸・グラフィックデザイン)	押木 秀樹 (書道)
山田 真一 (書道)	藤野 正二 (写真)
新井 浩樹 (写真)	佐藤 勝則 (学識経験者)
筑波 進 (洋画・版画)	

表紙デザイン・レイアウト／筑波 進



Joetsu City Art Exhibition

